

情報リテラシーと伝える技法

2019年度研修分科会 第6回@立教大学

NPO法人大学図書館支援機構 伊澤和夏

自己紹介にかえて

- 図書館の機械化、書誌ユーティリティーの歴史を振り返ると:1970年～2000年
- IFLAのUBC(世界書誌調整)から全国書誌をMARC(機械可読目録)化へ
- LCMARC(1965年～)
- JAPAN MARC(1975年～)
- 1970年代:北米、英国の書誌ユーティリティー活動開始:OCLC, RLG, UTLAS, WLN
- 1985年:NACISIS-CATサービス開始
- SHARED CATALOGINGという精神:紙媒体の時代から
- 国際標準規格の強み

本日のレジュメ

- 情報リテラシー
- 大学図書館での情報サービス・文献提供
- 文献探索概要：学術情報の流通
- 文献、学術情報とは
- 学術雑誌についての基礎知識
- オープン化、デジタル化
- データベース（文献VS全文）
- 情報リテラシーのスキルアップのために
- 良いプレゼンテーションのために

情報リテラシーとは？

(出典:図書館情報学用語事典)

- さまざまな種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力. 具体的には:

〈1〉情報へのアクセス:さまざまな種類の情報源について熟知している. 実際にレファレンスブックや各種データベースなどを利用して, 必要な情報にアクセスすることができる.

〈2〉情報の評価:精度や再現率などから, アクセスした情報の正しい評価を行うことができる.

〈3〉情報の活用:既存の知識体系の中に, 新しい情報を統合することができる. 問題解決にあたり, 情報を有効に適用することができる

情報リテラシーとは何か？

情報を扱う基本的な能力 : ネットワーク時代の今日では、膨大に得られる情報の中から、

- 必要な情報を**確実に収集、整理し、組み替える**より高度な能力
- 自分にとって必要な情報を、
- 信頼できる、鮮度の高い情報を、
- 統合、体系づけられる能力、

コトバンク([HTTPS://KOTOBANK.JP/WORD/情報リテラシー-4581](https://kotobank.jp/word/情報リテラシー-4581))

情報リテラシーとは何か？

- * 情報基礎リテラシー
- * PC、コンピューターリテラシー
- * メディアリテラシー
- * ネットワークリテラシー

大学図書館での情報サービス・文献提供

- 所蔵資料の提供：自館の蔵書構成、収書方針
- 他館所蔵資料の提供：NACSIS-ILL、その他のILLサービス機能
- 主題分野別専門資料についての知識
- 書誌事項の読解・解釈：参考文献、引用情報の解釈
- 文献探索の方法：各種データベース、シソーラスなど
- 所蔵調査：他館の所蔵を調査できるツール

文献探索概要：学術情報の流通

- 研究成果情報の流通：雑誌論文、学会発表、学位論文等を経由して世の中に流通
- 学術雑誌の評価：コアジャーナル（高評価で重要、インパクトファクター一値高）
- 雑誌論文の掲載先：
 - 大学・研究機関発行の紀要、論文集等
 - 専門分野別の学協会の機関紙
 - 商業出版社発行の専門学術雑誌
- オープンアクセス（OA）、機関リポジトリ（IR）、研究者SNS...

文献、学術情報とは

×学術情報の種類

☆雑誌論文：学協会誌、商業雑誌、紀要（レター誌、レビュー誌...）

☆学位論文：博士、修士論文

☆会議録：学会の総会、研究会、シンポジウム、ワークショップ等の記録

☆特許

☆規格（JIS、ISO等）

☆テクニカルレポート：研究機関発行の

技術報告、調査研究報告...

☆発掘資料、図録...

学術雑誌についての基礎知識

- 大学等の研究機関での研究成果情報の発表は雑誌論文、学会発表、学位論文等様々な媒体の資料を経て世に流通する。
- 各専門分野毎に、評価が高い、少数の学術雑誌群が存在し、専門資料として信頼性が高い。
(ブラッドフォードの原則)
- 各専門分野には、研究テーマに応じて非常に重要な雑誌、常に目を通して、動向に注目すべき雑誌があり、コア(CORE)ジャーナルと呼ぶ。

学術雑誌についての基礎知識

- 評価の高い雑誌においては、論文が投稿されてから、各分野の専門の研究者による「査読」
(ピアレビュー)と呼ばれる審査を受けたのち発表される
- 査読に時間がかかるため、最新の成果を会議録やプレプリントで公表する場合もある
- 雑誌論文を書く場合には、学会や出版社により異なるが、それぞれの投稿規定に準拠する必要がある(例: VANCOUVER STYLE、HARVARD STYLE、ACS、IEEE、CHICAGO STYLE...)

学術雑誌についての基礎知識

- 雑誌の評価指標: 文献引用影響率、**IMPACT FACTOR(IF)**
- 作成元: **THOMSON SCIENTIFIC社**
調査ツール: **JCR: JOURNAL CITATION REPORTS** (WEB OF SCIENCEの収録誌から計算)
- IF値とは: 特定の一年間においてある雑誌に掲載された論文が平均何回引用されたかを示す尺度
【例】**NATURE誌 2010IF=36.101**
(2010年1年間で50万回以上の引用)

インパクトファクター(文献引用影響率)

☆なぜ引用情報が雑誌の評価指標に使えるのか？

(引用分析 GARFIELD E.,1996)

□どの分野にも少数の重要な雑誌(コアジャーナル)がある

- 150誌程度の雑誌が

・引用実績全体の半分

・出版実績全体の4分の1を占めている

- 約2,000点の雑誌で

・引用された記事の95%

・出版された記事の85% がカバーされている

□中核となる雑誌(コアジャーナル)は、絶えず変化している

→引用は少数の雑誌に集中する (ガーフィールドの集中則)(スター論文)

ブラッドフォードの法則

オープン化

- オープンアクセス
- オープンデータ
- オープンサイエンス
- LOD (LINKED OPEN DATA)

デジタル化

- 一次資料のデジタルアーカイブ
- メタデータ、画像データの規格 (DC、IIIF...)
- デジタルデータベースプラットフォーム : EUROPEANA, ジャパンサーチ

文献データベース

- 各専門分野にどんな文献が存在か、論文タイトル、論文著者、所属機関、キーワード等から検索
- 文献(書誌)情報が収録されている。
- 専門用語の辞書、**シソーラス**を持っていることもある。
- 論文全文(フルテキスト)へのリンク機能、引用情報、リンクの提供
- 該当分野の論文を**網羅的に**検索することができる。

全文データベース

- 特定の出版社発行の雑誌の目次や掲載論文を検索、論文本文を読む
- 文献(書誌)情報が掲載されている。
- 契約タイトルについては論文全文が読める。
- フルテキストの検索可能

情報リテラシーのスキルアップのために

- 大学の教育方針と教員、資料の特徴を知る：強みと弱み、客観的な評価
- 教員の専門・研究分野、業績を知る：
- シラバスの内容を知る：テキスト、参考書
- 自館の蔵書構築方針、蔵書内容の特徴を知る：主題分類・目録の知識
- 自館で契約・提供している、データベース、サービス、機関リポジトリ等のサービスを知る、契約内容も要確認
- 日進月歩の学術研究の現場を知る：知的好奇心のアンテナの感度を磨いて！
- ニュースソースをフォロー



伝えるために
心掛けること

相手にわかってもらう
ように話すとは

専門用語に頼らずに

難しいことを易
しい言葉で

自分と他人の理解の
温度差

プレゼンテーションを担当するあなたに一言

- 起承転結の構成:

初めに、何を話すか、どう進めるか、講義の内容を伝達する

- メリハリ: 強調すべきところ、流すところ、時間配分

- 受講者の理解度を推し量る: 言葉の選び方、言い換え

- ストーリーを考える: 説明に使用するテーマを選んでおく、デモの流れをリハーサル、時間を測る

- 時間厳守: 数分前で終了できるような組み立て

話し方は内容に匹敵

- 滑舌と口角（明瞭な音で、早口にならずに）
- 適度な間をとって、沈黙は怖くない！（えーとはなし）
- 自分の声質、トーン、話し方、スピードを知って！
- スライド1枚の所要時間を知ろう
- 臨機応変（あえて省略、余裕なら追加）



- 前半はここまで、お疲れさまでした！
- 後半は実践編